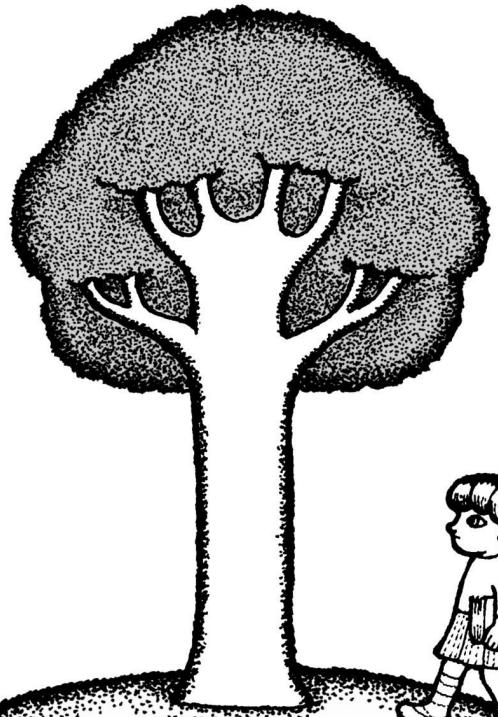


ある小さな丘の上に  
小さな木がありました。  
この木を大切に思っている  
ふたりがいました。



ひとりは女の子でした。

名前をちひろといいました。

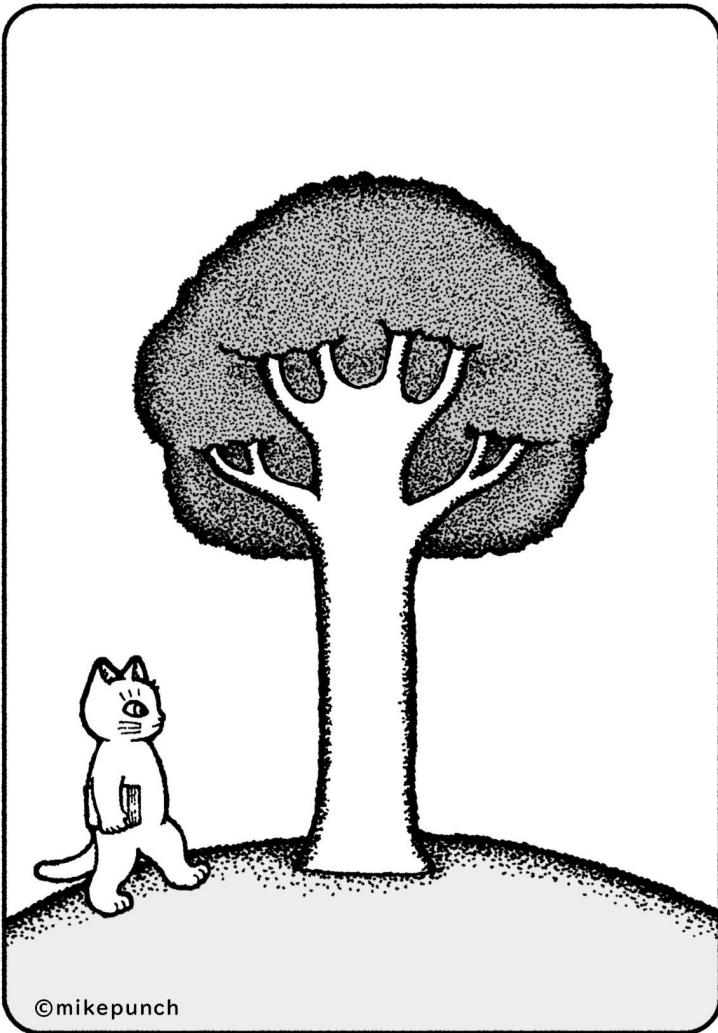
ちひろは学校や家にいたくないとき

ひとりで静かにしていたいとき

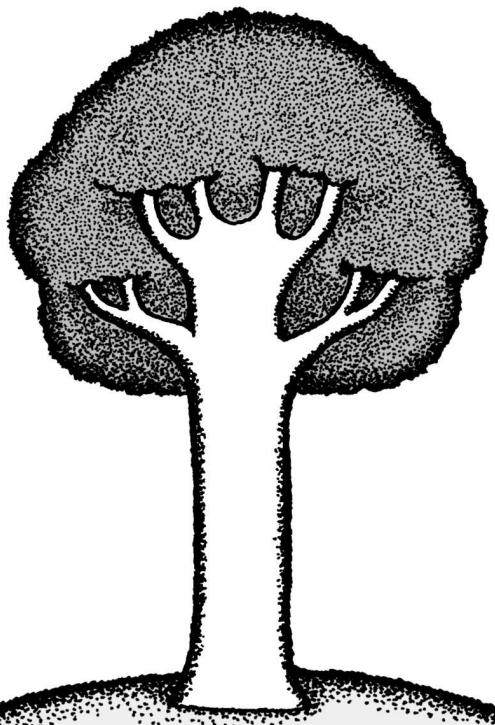
本を持って木の下へやってきて

ひとりで本を読みました。

ちひろはこの木がとても好きでした。



もうひとりは猫でした。  
名前をタマといいました。  
タマはものをつくる職人でした。  
仕事にくたびれたとき  
アイデアにつまつたとき  
本を持って木の下へやってきて  
ひとりで本を読みました。  
タマはこの木がとても好きでした。



ちひろとタマはおたがいのことを  
知りませんでした。  
いつも違う時間に来ていたので  
会うことはありませんでした。  
ふたりのことを知っているのは  
木だけでした。  
木はふたりがとても好きでした。